

いじめっ娘倶楽部のSPH文庫

女子に負けてリングの上で全裸にされる話

### 【第3話】 スッポンポンで強制オナニー

皆さんこんにちは。

私立空想学園大学・2年の原田里美です。

この前のお話...、そう(笑)、私がマネージャーをしてたボクシング部のM男部長と総合格闘技MMA同窓会の京子さんの試合...。女子の京子さんに惨敗して泣かされて...。リングの上でパンツを脱いでおちんちん丸出しで謝らされた...惨めな部長の話。

リングの上でスッポンポンで羽交い締めになされた部長...。

大勢の相手のチームの女子にそのみっともない姿を嘲笑われただけでなく...、そのまんまの姿で、私達...ボクシング部の後輩女子たちの前に連れてこられて...。

その...、私達も見せられたんですよ...

M男部長の...、おちんちん...

あっ、べ、別にそんな、私から見た訳じゃなくて...その！

み...、見ないと...部長の...き...きんたま蹴り潰す...とか言うから...仕方無く...

そしたら...！

そのおちんちんが...スッゴク小さくて...、しかも、見事な...包茎！

しかも私...、そのおちんちんを指で摘まんで...サイズを測る様に命令されちゃって...

もちろんそんなの断ったんですけど！

でもその...やらなきゃ部長をそのままスッポンポンのおちんちん丸出しで...

学内を歩かせるって...

そ...そんなの可哀想だし...仕方なく...

測ったらんですよ...

ホントは触りたくなかったけど、仕方ないから言われた通りに指で摘まんで...、  
そしたら...、ムッチャ小さくて...、  
なんと、たったの3センチ...。  
そんな恥ずかしい赤ちゃんちんちんを晒し者にされても京子さんたち、相手の女子が恐くて逆らえない、なっさけないM男部長...。  
もう、正直私たち部員はみんなあきれちゃって...。  
そんな時に京子さんがある提案をしてきたんです...。

「実はさぁ？  
うちの同好会、今までフリーで出場した大会の実績とかが認められて、部員の数がもう少し増えたら、正式に大学公認のクラブになれるんだよね。  
このボクシング部以外では唯一の格闘技のクラブ。  
だからさぁ？  
あんたらみんな、うちに来ない？」

その言葉に、ボクシング部の部員のひとりが戸惑ったように声を上げました。

「えっ...？私達が...総合格闘技？」

京子さんは、軽く笑って続けました。

「あ、うちはMMAだけじゃなくて、立ち技専門...、キックやボクシング専門の子もいるから。

あんたらはそのままボクシング続けてもいいからさ？

それとも...ww(クスッ)、まだこの...フルチン部長についていく気...あるの(笑)？」

その一言で、みんなの視線がM男部長に集まりました。

目の前で裸にされ、おちんちんを晒されたまま、震えている元部長。

部員のひとりが、ぽつりと呟きました。

「確かに...、私...あんな恥ずかしい部長...ついていけないし...、退部しようかとは...。  
えっ...？みんなも...？  
もう退部しようかなっ...て...。」

それを聞いた私も...、もう正直な気持ちを隠しきれませんでした。

「た...、確かに...私も正直...。  
こんな恥ずかしい姿見ちゃったら...。  
まともに部長の顔見れない...かな...。」

京子さんは、少し満足そうに笑いました。

「あたしはコイツみたいな口だけの軟弱男子は大嫌いだから、ちょっと痛め付けて？  
こんな風にチンポ丸出しにして恥かかせてやったけどさあwww？  
あんたら女子部員には何の恨みもないから

さ？

強くなりたい女子は歓迎するよ？

あ、それとマネージャーのあんた...里美...  
だっけ？

さっきはちょっと手荒な真似して悪かった  
ね！

でも、あんたのその気の強いところ、気に入ったよ(笑)？

だからさあ...、みんなまとめてうちに来な  
よ？」

そんな誘いに戸惑う部員たち。

「えっ...どうしよう？みんなは...どうする  
の？」

ひとりが、周りを見回しながら言いました。

「その...、私はそれでも...いいかなあ...とか。  
だって...あの...京子さんって、部長なんかより  
も断然強いし...あんな女の人...ちょっと憧

れるかなあ...とか。」

また別の部員も、それに続きました。

「あ...、実は私もちょっとそう思ってたかも...。

マネージャーは...、どうするの？」

急に振られて、私は言葉に詰まりました。

「えっ...？わ、私は...その...！」

京子さんは、そんな私たちを見て、さらに提案しました。

「じゃあさ、こういうことでどう？  
この部長君にはさあ、約束通り今からあたしらMMA同好会のメンバーの前で罰ゲームをしてもらうつもりなんだけどさあ(笑)？  
今日からあたしらの仲間になりたい子は、このままここに残って、一緒に罰ゲーム見てい

きなよ(笑)?

で、これからも...www(ｸｽｸｽ)、このお子様チンポの包莖部長についていってボクシング部を続けたい子は、このままボクシング部の部室に帰って、この部長の帰りでも待ってな。」

そんな京子さんの提案に...少し迷った私達ボクシング部の女子部員...

でも、結局ボクシング部の部室に帰ろうとする子は1人もいなくて...

そう...。みんなで一緒に学園公認のMMA部に入部することに決めたんです。

あ...、もちろん私も。

だって...www(ｸｽｸｽ)、ちょっと悩みはしたけど、目の前でちっちゃな包莖ちんちん丸出しで気をつけさせられてる...ww(ｸｽｯ)、

なっさけないM男部長の姿...改めて見ちゃったらwww(ｸｽｸｽ)、

なんか部長への情とか、ボクシング部への思い入れなんてのも全部吹き飛んじゃいました



(笑)。

そんなわけで、さっきまで敵同士だった  
MMA部のメンバーと合流した私達ボクシン  
グ部の女子部員はみんなリングサイドの1ヶ  
所に集められて…。

京子さんが、部長に向かって命じました。

「さてと…、じゃあ短小包茎チンポの部長  
君…www(クスクス)？」

約束通り…みんなの前で罰ゲームをしてもら  
おうかなあ(笑)？

先ずはほらwww(クスクス)！

もっとロープ際…、みんなの前に来な！」

命令されると、部長はびくっと肩を震わせま  
した。

それでも逆らえず、ロープ際へ歩かされま  
す。

近くにいた元ボクシング部の部員が、思わず

声を上げました。

「キャッ！ヤダッ！  
こ、こんな近くで...、おちんちん丸出しで...  
立たされてますよ...ww(クッス)！」

別の部員が、口元を押さえながら笑いました。

「プッ...(笑)！  
でもさあ...www(クスクス)？  
こうやって改めて近くで見たら...、ホント  
ちっちゃいおちんちんよね...www(クスクス)？  
子どものおちんちんみたいwww(クスクス)。」

さらに別の部員も、少し悪ノリするように続けました。

「あの...www(クスクス)、私んち、今年で3歳になる甥っ子がいるんですけどね...？  
その子のおちんちんあれと同じぐらいの大き

さなんですよね...www(クスクス)！」

私は、思わず吹き出しそうになりました。

「えっ...(笑)?やだ...www!  
それって...おちんちん3歳児並み...ってこと...  
www(クスクス)?  
あ、...でも確かに...さっき摘まんだ時...プッ  
(笑)! www(クスクス)！」

私は自分で言っておきながら、慌てて口元を  
押さえました。

でも、もう笑いを完全に隠す気もなくなってい  
ました。

京子さんが、楽しそうに手を叩きました。

「じゃあみんな注目～(笑)！  
今からこいつには罰ゲームをしてもらうから  
ね(笑)！  
こいつ今日から何でも言うこと聞く奴隷だか

らね～！

...ってことで～(笑)

お前さあ...www(クスクス)？

今からここで...

オナニーしな？」

MMA同好会の女子が、すぐに反応しました。

「プッ...(笑)！www～！

えっ(笑)？

オ...オナニ～www？

リングの上で...(笑)？

こいつにちんぽシコらせるの～(笑)！？

それ(笑)、ウケる～www！」

それを聞いて元ボクシング部の部員が、驚いたように叫びました。

「えっ...!?  
ヤダッ...嘘!?  
オ...オナニー...って!?  
まさか本当にそんなことさせちゃうの...!？」

私も反射的に止めようと思いました。

「ちょっ...！ちょっと待って！  
それはいくらなんでも...！」

京子さんが、私の方を見ました。

「えっ...？どうしたの(笑)？  
『元・マネージャーさん』(笑)？」

「いえ...、あの～。  
それはいくらなんでも...その...、  
こんな大勢の女子の前で...？  
そ、そんな...、オ...オナニー...だなんて、  
そんな恥ずかしい事させるなんて...、可哀

想...って言うか...。」

そう言いながら、私は自分の声に前ほどの必死さが無いことに気づいていました。  
京子さんは、私の中途半端な庇い方を見透かしたように笑いました。

「www！ふう～ん(笑)？  
あんたまだこんな情けない部長を庇ってやるんだあwww(ｸｽｸｽ)？  
優しいんだねえ(笑)？  
でもまあ、あんたも今日からあたしらの仲間だし、あんたに免じて...、ちょっとだけ情けかけてやろうかな...っと(笑)」

MMA同好会の女子が、少し残念そうに聞き返しました。

「えっ？もしかして許してやるんッスか？  
全裸オナニーショー(笑)？」

京子さんは首を横に振りしました。

「いや(笑)、そうじゃなくてさ...、こいつに  
選ばせてやるの...www(ｸｽｸｽ)、